

# 情報収集の仕方

STEP

## 求人情報の媒体それぞれの特徴を掴んで上手に利用しよう

### 効率的に情報収集する！

再就職活動を効率的に行うには、まず求人情報の収集の仕方を考えよう。求人情報はさまざまな媒体を通して収集することができるが、これこそ「チャンス！」と思われる求人募集にいくつ巡り会えるかどうかだ。

求人情報はたいてい手を伸ばせば簡単に入手できるのだが、募集期間が短い分、何度も何日間も掲示されるわけではない。どこかの企業があなたにぴったりの仕事の求人広告を出していても見逃したらおしまいなのだ。

求人情報の媒体はこれから説明するよう非常にたくさんある。とにかく数多くの情報を得たいなら、それらを手当た

り次第使えばよいのだが、希望する業界、職種、あるいは勤務地などが決まっている場合は、必要な部分だけをチェックすればよいだろう。そういう意味では人材バンク（人材斡旋機関）を利用するのも有用だ。ただし、そういうところに頼るだけでなく、自分の手でまたはネットワークを通じて多くの情報のなかから選ぶようにすべきである。

### 新聞の求人広告

朝日、読売、毎日、日経などのいわゆるデイリー新聞には、たいてい日曜日に求人広告がまとめて掲載されている。新聞社によっては月曜・火曜にも求人広告を出している。求人側も大手企業から中小企業まで最新の情報を載せているから、

必ずチェックしてもらいたいところだ。

なお、外資系企業や金融関係なら日経、マスコミ関係なら朝日が他に比べて多い傾向にあるし、希望する業界の業界紙なども目を通しておくとよいだろう。また、Uターン、Iターン就職をするつもりなら、是非とも地元の地方紙は取り寄せるべきである。

### 折り込みチラシ

新聞の折り込みチラシにも求人広告がある。これは地元地域の産業が中心となっているから、勤務先を住まいの近くと希望している場合には非常に有効な媒体だ。

### 求人雑誌

情報量が多く、しかも内容が充実して

いるものもある。求人内容については、募集している職種とその仕事内容、募集条件、勤務地、勤務時間など非常に詳しい上に、給料などの待遇、応募の方法、さらにはその会社の資本金や売上高などの会社概要、事業内容、取引先、取扱商品など詳しいデータも掲載されている。なお、地域版を出しているものもあるので、地方に再就職したい場合には取り寄せるとよいだろう。

### 人材斡旋機関（人材紹介会社）

人材斡旋機関（人材紹介会社）とは、求職者と求人募集している企業との仲介を行う民間の斡旋機関（ハローワークが開設した公的人材銀行とは異なる）だ。自分の希望する業界、職種、条件、キャ

リアなどの個人情報申告して登録すれば、希望に合致する求人があったら紹介してくれる。求人する企業についても経営の概要から経営方針、業績、社風など詳しい情報を持っている。求職者が紹介された企業についてよければ、その企業で採用試験(面接)を受けることになる。人材紹介会社が公的機関と根本的に違うのは、コンサルタントがいて、その人が紹介からアドバイス、相談、企業への交渉なども行ってくれるということだ。たいてい面接では同伴してくれるし、企業へ直接言いづらいことなども折衝してくれる。

こういった人材紹介会社は現在500社以上あるともいわれているが、ハイテクやエンジニア専門のところ、外資系に強いところ、企業系列のところなど、特色のあるところもあるし、大規模から小規模、登録企業の数、サービスの良さなどからみて、どこを選ぶかはよく検討したほうがよいだろう。もちろん、複数社に登録しても構わない。

たいていは登録や紹介に手数料等はかからない。こうした会社の収入は求人企業からの手数料(成功報酬)によるものである。

なお、コンサルタントがあまり親身でなかったり、いい加減な紹介、むやみに再就職を急がせたりする場合はあまりいい紹介会社ではないと思うてよいだろう。

## ハローワーク

公的機関なので信頼性が高く、情報量

も豊富で無料で利用できる。管轄区域に関して幅広い業種の情報を得ることができ、その場でさまざまなアドバイスを受けることもできる。

また、東京23区や札幌、名古屋、大阪、福岡などの各都市のハローワークの求人情報がインターネットで検索することができるから、該当する地方の求人情報も見ることが可能だ。

## 人材銀行

管理的、専門・技術的職種の専門的職業紹介を行う機関。対象は技術職や管理職、専門職が大多数を占めている。

## ヘッドハント、スカウト

これは求職者側からでなく、企業からの再就職の呼び込みで、ヘッドハント専門会社が依頼を受けて行うものだ。対象となるのは、新規事業部門を立ち上げて成功した人、トップセールスマン、専門分野での草分け的存在とか豊富な経験のある実力者などで、企業側のニーズにえられる厳選された人材といえる。

## ネットワーク、クチコミ

友人・知人・親戚・取引先など、あなた自身をよく知る人が、あなたが再就職を希望しているのを聞きつけて再就職先を紹介してくれることもある。あるいは、再就職を相談して紹介をお願いすると、あなたのためにわざわざ骨を折って仲介してくれることもあるだろう。

求人件数が少ない就職難の時代だから、

この様なネットワーク、クチコミは非常にありがたいものだ。

ただし、このような場合は、断りたくても断りづらかったり、待遇や条件など詳細の部分が聞きづらいこともある。また、入社後も紹介者のメンツをつぶさないように神経を使うことになるだろう。第三者からの厚意はありがたい反面、無下に断って人間関係を悪くすることがないように注意する必要がある。

## 人材派遣会社

一般の正社員とは異なるが、派遣社員として仕事に就く人が増加している。

まずは人材派遣会社に個人情報(能力・資格・技能など)や希望する職種・勤務時間・勤務地・給料(時給)など登録する。するとほぼ希望にあった業種の企業に派遣され(もしいやなら断ることもできる)、そこで派遣社員として契約した期間だけ、契約した仕事をするようになる。

雇用形態は一般の正社員とは異なり、労働契約は派遣会社と結ぶことになり、給料や労働時間等の勤務条件は派遣会社との取り決めに従うことになる。

したがって、派遣社員は正社員と比べると、時給制なので収入は低いわけだが、人間関係に悩まされることもなく、配置転換されることもない。だから、自分の意思で働き方を選択できるというメリットがある。また、派遣会社によってはテクニカルサポートや、キャリアアップ・資格取得のための教育研修制度が充実し

ているところもある。

従来は派遣法で対象業務は専門職などに限定されていたが、99年の改正で対象業務が一部を残してほぼ自由化された。これによって企業も人件費の削減のために従業員数を削減してそこに派遣社員を配置したり、パート・アルバイト的な仕事も派遣社員に請け負わせることもあり得ると考えられる。パート・アルバイトの採用の時間や時間、教育指導を考えるとコスト的にも能力的にも派遣社員のほうが有利だからだ。

また、派遣社員から派遣先企業の正社員として採用されるという道も開けてきた。再就職情勢が厳しいため、正社員にならずに派遣社員に流れる傾向は以前からあったのだが、一層これに拍車がかかると予想される。

なお、人材派遣会社も人材紹介会社と同様に、かなりの数が存在し、規模やサービス内容、外資系、企業系列会社など様々だ。登録する際には、派遣後のトラブルがあったときの解決・相談窓口があるか、教育施設や制度・システムは充実しているか、コーディネーターの対応はよいかなどをよく見て複数の会社に登録するのもよいだろう。

## パソコン通信、インターネット

コンピュータ時代が到来した現在では、インターネットを利用して求人募集する企業、また求人情報を収集する求職者が非常に増えてきている。パソコン通信やインターネットなら、時間も場所も選ば

## 電子メールで問い合わせをするときの注意事項

電子メールを送るにはマナーがある。マナーといっても堅苦しい面倒なものではないが、常識として知っておくべき点をあげておく。すでに公私ともに電子メールを使用している人は多いだろうから先刻承知とは思いますが、念のために。

電子メールでは、ビジネス文書や手紙のような決まったフォームもなければ、慣用句も必要ない。たとえば、「拝啓」「敬具」とか、「早春の候 貴社ますますご繁栄のこととお喜び申し上げます」等の挨拶文だ。これらの儀礼的な文言はいっさい不要である。

簡潔であること、用件のみで済ませることがマナーなのだ。ただし先方は応募先であるということをお忘れず、敬語まで省略してしまわないように注意してほしい。

もう一つ注意すべきなのは、特殊フォントや半角カナを使ってはいけないということ。機種によっては文字化けしてしまうことがあるからだ。カタカナを入力する場合は必ず全角で入力する。

## インターネットで履歴書を送信して応募する場合

内容は一般の履歴書・職務経歴書と同じだが…

履歴書や職務経歴書をメールで送信するように指定する企業は、現在のところは多くはない。しかし、ホームページの採用情報のところで募集要項と同時に自社指定の履歴書を用意していて、それに入力して送信するようにと指示する企業は増えてきている。この場合の履歴書は、転職情報サイトから直接応募するときの応募書類とほぼ記載内容は同じであると考えてよいだろう。

どちらにせよ、記載する内容は市販の履歴書や職務経歴書を作成するときと同じだ。むしろ、手書きの場合は書き損じたら別の用紙に書き直さなければならないが、電子メールなら間違えたところだけ打ち直せばよいのだからそのぶん楽かもしれない。

記入する場合は、フリガナやマンション名などは全角のカタカナで、生年月日や郵便番号などの数字は半角で記入する。なお、入力に時間がかかると、タイムアウトで接続中断してしまう場合がある。そういう場合は、ページを表示したままダイヤルを切断し、入力後に再度接続して送信ボタンをクリックすれば送信できる。

ないというのが最大のメリットだ。家にながらでも、帰宅後夜でも再就職活動ができるわけだ。

求職方法は2通りある。1つは希望する会社がホームページを開設しているケース。このケースは必ずそのホームページにアクセスしてみよう。その企業が求人募集中であれば採用情報を出しているはずだ。応募するならメールで資料請求

や問い合わせをする。メールによる履歴書を受け付けているところもある。また、今現在は募集していないが求職の登録を受け付けているというところもある。

企業のホームページでは、会社の最新情報を掲示しているから、会社概要や事業内容から最新商品の案内まで知ることができるので、企業研究もこれで十分だ。もう1つは、転職情報サイトで求人情

報を見たり、そこから直接応募ができたりするケース。このケースでは方法はサイトによって異なるが、希望する業種や職種条件などを入力して検索すると、該当する企業が見れるもの、履歴書を入力して登録しておく企業から連絡がくるものもある。

あるいは「求人」というキーワードを入力して検索してみてもよいだろう。こ

れだけでも就職情報のホームページがかなり見つかるはずだ。

また99年3月からはハローワークの求人情報もインターネットで見られるようになった。

## 求人広告はココをチェックする

自分に適した会社選択には、求人情報の検討が欠かせない。ピーニングを例に、求人情報誌に記載されている項目を確認しておこう。

### 職種

「営業」でも、ルートセールスから新規開拓営業までさまざま。企業によって職務領域が違う場合もある。

### 資格

年齢制限や学歴制限は一つの目安として考えよう。熱意やキャリア次第では多少条件から外れていても受け入れてもらえる場合もある。

### 勤務地

数カ所列記されている場合、希望が考慮されるか、転勤はあるかなどは企業によって異なる。

### 勤務時間

書かれているのは、就業規則での勤務時間。残業や早出まで書かれていることはほとんどない。

### 給与

「固定給制」と「固定給プラス歩合給制」に分かれる。表記金額は最低保証金額で、例表示や上限が表記されていることも。初任給は能力やキャリアを考慮して決定される。

### 休日休暇

業種によって休日はさまざま。有給休暇は基本的には入社半年以上の社員が対象だが、入社後すぐに発生するケースもある。ほかに年末年始、夏季、慶弔、特別休暇などがある。

### 待遇

昇給、賞与、各種手当が表示。

### 事業内容

企業が携わっている事業分野。異業種、異分野への進出が著しい企業の場合、求人分野の事業も確認。

### 創業と設立

創業とは、会社が業務を開始した時期。設立とは、商法上の設立登記をして法人組織としてスタートした時期をいう。

### 資本金

設立、増資で金融機関に払い込む「払込資本」が表示される。その大小で会社規模がわかるが、他社と比較するときは同業種間で。業種により、必要な資本金が違うからだ。

### 従業員数 と社員数

従業員数にはパートタイム、アルバイト、嘱託などが含まれる。社員数ならば、正社員だけの数。

### 平均年齢

一般に新しい企業は平均年齢が低く、歴史のある企業は高い。

### 年商

企業の1年間の売上高。業績を知る上で重要な数字だが、これはあくまでも商取引額。利益ではない。

### 応募方法

多いのは「電話連絡の上、履歴書持参で来社ください」「履歴書を郵送してください。追って面接日を連絡します」の2つ。いずれにしろ、会社側の指示に従うのが鉄則。また前者では、電話のマナーに注意。後者は書類選考がある可能性が高いので、履歴書作成に細心の注意を払うこと。職務経歴書や自己PR書を同封してアピールするといいい。

### フリースペース

フリースペースには、各社とも工夫を凝らし、将来への事業意欲や人材に対する考え方など、企業の一番いいことが書かれている。じっくり読んで会社の考え方を理解しておけば、面接にも役立つはずだ。